

事業名 水と緑と歴史のフィールドミュージアムひきふねがわ（曳舟川親水公園）

地域の人々と公園のあり方や将来の利用計画・管理運営についての協議の結果、当初の基本計画を見直し、水田を設置。この復元した水田と小川が環境学習の場や散策に大いに利用されていることと、住民が継続的に関わりたいという意向を汲んだことを地域で高く評価された事業

受賞機関 東京都葛飾区建設部
事業実施期間 平成9年10月7日～平成11年3月15日
事業費 320百万円

事業等の特徴

曳舟川の清流と緑の自然を活かし、水生生物が生息するビオトープとして小川を整備するなど、自然の再生を実施している。特に、地域住民の計画立案により設置され、管理運営や農作業のイベントが行われている水田は、住民参加型の体験学習の場、自然観察等の環境学習の場として利用され、住民が継続的に関わる意向を高めた。

事業の概要と利用者等の評価

曳舟川親水公園の前身である曳舟川（葛西用水）は、近年まで、灌漑や運搬などのために利用されたが、その後、生活雑排水などを流す排水路となり、下水道の整備とともに初期の役目を終え、埋め立てられた。葛飾区としては、かつての葛西用水の流れ、自然、そして歴史や文化を将来にわたって残し、また、再生し、育て、地域に潤いや安らぎを与える水と緑の環境軸とするために都市計画緑地として位置付け、整備を行っている。



グループ協議



体験学習

整備にあたっては、水と緑の環境軸として、既設の水遊び場ゾーンや景観水路との連続性に配慮する共に、バリアフリーにも努め、誰でもが憩い、親しめるようにした。

水遊び場を結ぶ景観水路を配し、昔ながらの小川に近づけるように法面をなるべく土で仕上げ、水際にはクサヨシ、サンカクイ、コガマ等の水生植物を植栽した。また、郷土と天文の博物館に隣接しているゾーンについては、面積約30㎡の水田4箇所を設置し、市街化により失われた自然を再生し、博物館を核に屋内と屋外の連続した体験学習の場として利用できるようにした。

計画・設計は、地元自治町会や連合町会、郷土と天文の学芸員などの関係機関、関係者と協議及び協力を得ながら進めた。景観水路については、既存のものも含め、多くの生き物が観察され、小・中学生の自然観察学習の場となっている。また、整備以前の曳舟川に住んでいたためだかを里親が増やし、地元の保育園児が放流した。

事業の特色は、当初の基本計画を見直し、水田を設置したことである。この復元した水田と小川が環境学習の場や散策に大いに利用されていること、住民が継続的に関わりたいという意向を汲んだことを地域で高く評価された事業である。平成11年度から住民の発案で、太郎兵衛もちを栽培し、田植え、稲刈り、餅つき等を行い好評を博している。12年度からは、同じく住民の発案で、太郎兵衛もちのほか、一部で古代米（赤米と黒米）や山田錦を栽培している。

本事業では、ハードとソフトが融合でき、基本計画のテーマ「水と緑と歴史のフィールドミュージアム」を達成したことが評価される。また、この公園を通じて、郷土愛が醸成された。現在まで、広報や新聞等で取り上げられ、多くの区民に注目されている。

審査委員会委員の意見等

- ・まちなかの身近な自然を活かし、住民が継続的な係りを持つ事業を行っている。
- ・市民主導型の親水空間づくりとして着目できる。施設整備だけでなく、その使い方も協働型で考えているところが高く評価できる。日本トンボ学会会員による調査もNPO/NGOとの協働の新しい形として注目される。
- ・環境学習が提唱されている現在、身近に自然体験が（特に都市部）あることは、今後も有効活用されられると思われる。
- ・計画段階から住民参加型で進められており、完成後も体験学習の場等として広く利用されている。